

令和7年度学校評価報告書

令和8年3月27日

北海道教育委員会教育長 様

北海道登別青嶺高等学校長 奥 田 智 紀 印

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標（スクール・ミッション）

(1) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成
(2) 地域唯一の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成
(3) 自他を尊重し思いやりの心を持ち、義務と責任を重んじ的確に判断し、主体的に行動できる生徒の育成

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	- 基礎学力の定着と学習習慣の定着に課題がある。朝読書・朝学習の継続により、学習習慣の定着を働きかけているところである。 - 学期の始めや試験の前に「教務だより」を発行し、家庭学習の重要性を啓発した。 - 週末課題の実施など、学習習慣の定着を図る取組は実践しているが、自己評価は低い結果となった。 - 全年次で1人1台端末（ICT）が有効活用されている。	「基礎学力の定着」の達成状況が低い評価であるのは昨年度と同様であるが、「家庭学習の促進」や「授業規律の確立」の達成状況が低い状況に変化しているので、基礎基本を大切にする授業改善、家庭学習の取組など、学校全体で組織的に取り組んでいく方策が必要となると感じる。
改善方策	- 基礎基本を大切にする指導については先生方に浸透しているので次年度も継続する。 - 朝読書や朝学習の取組の継続により、学習習慣の定着を図る。 - 本校の特色である「じもと学Ⅰ・Ⅱ」を更に充実した内容とし、生徒の個別ニーズに対応した教育課程を編成する。	
生徒指導	- 授業規律に課題が見られた。授業の中で生徒自身が主体的に学ぶ意識を高める授業改善をしている科目が増えてきているが、更に興味・関心を持つ教材・授業展開の工夫が必要である。 - スマホの自己管理は、大きなトラブルはないものの、継続的な指導が必要である。生徒は学校行事やボランティア活動に積極的に参加し、生き生きと活動している。 - いじめ対策委員会を中心として、組織的な対応を行っている。	「じもと学」の学習とともに、地域のイベントやボランティア活動に積極的に参加し、地域を担う一因としての意識の醸成が必要であると思います。 - スマートフォンの使用は今の時代のツールとして、不可欠な存在となっているが学校行事などを通じて、他のコミュニケーションづくりに工夫をお願いします。 - 学校の活性化のためには活発な学校行事や部活動は不可欠ですが、生徒数の減少に応じた部活動の精選や学校行事の転換が必要と思われます。
改善方策	学校の現状を踏まえた学校行事や部活動のあり方について検討する。	
進路指導	- 生徒との進路にかかる個別相談の充実について、自己評価も高く、継続して実施していく。 - 上位層の学力伸長にかかる取組で自己評価が低くなっていることから、上位層の学力伸長に更に具体策を講じて取り組む必要がある。	- 進路指導については、以前から評価が高く、これからもよりしくお願いします。 - 進路指導のA評価の項目が生徒評価と相関しているように思います。引き続き、進路指導の更なる充実に努めていきたいと考えております。
改善方策	上位層の学力伸長のための取組みについて、講習や週末課題の添削など、個別最適な学習指導を一層推進する。	
信頼される学校づくり	- PTAだより、年次通信、HP、配信メール等を活用して発信を強化している。 - 授業公開週間や学習成果発表会では、「じもと学」で関わりの深い登別市や、地域の小学校・中学校からも来校頂いた。	中学校との連携は今後も継続し、登別市のモデル地区として、地域で子どもを育てる環境づくりを推進してほしい。
改善方策	保護者の学校への参画意識を高める取組として、学校祭のPTAバザーを復活実施した。地域との距離を更に近づけ、本校を知ってもらうとともに、地域で生徒を育てる学校づくりを推進する。	
公表方法	学校運営協議会委員への説明、学校ホームページへの掲載	

3 添付資料

- (1) 令和7年度 学校関係者評価
- (2) 令和7年度 自己評価書